

はじめに

英国の ICT 分野においては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って発生している様々な危機に対して、官民一丸となった取組みが加速している。それは、通信サービス提供における弱者支援、オンライン教育サービスの拡充、新型コロナウイルス接触追跡アプリの開発・提供など多岐にわたる。以下に代表的な事例を提示する。

1 通信事業者による弱者支援対策

デジタル・文化・メディア・スポーツ省 (DCMS) は 2020 年 3 月、テレコム業界と共同で新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、脆弱な (vulnerable) 消費者を支援及び保護するための一連の措置に合意した¹。同省オリバー・ダウデン大臣、通信庁 (Ofcom) 及び英国の主要な電気通信事業者である BT/EE、オープンリーチ、バージンメディア、スカイ、トークトーク、O2 UK、ポードフォン、スリーUK、Hyperoptic、Gigaclear 及び KCOM は共同声明を発表し、脆弱な消費者及びコロナウイルスから生じる状況により脆弱になる可能性のある消費者に対し、以下の措置を取ることで合意した。

- * 料金を支払うのが難しい顧客と協力して、公正かつ適切なサポートを行う
- * 既存の全固定ブロードバンドサービスのデータ許容量の上限を取り払う
- * 最も脆弱な消費者に対する支援の継続を保証するために、新しいモバイル及び固定電話パッケージを提供する。例：低価格でのデータ量増加、固定電話または携帯電話からの無料通話など
- * 固定ブロードバンド及び固定電話の優先修理が実行できない場合に、脆弱な顧客または自宅待機をしている顧客に対し、可能な限り通信方法の代替手段を提供することを保証する

すでに、大手通信事業者は独自に、顧客に提供する一連のコロナウイルス支援策を実施しているが、上記の約束はそれに追加されるものとなった。

¹ <https://www.gov.uk/government/news/government-agrees-measures-with-telecoms-companies-to-support-vulnerable-consumers-through-covid-19>

2 公共放送 BBC によるオンライン教育サービスの拡充

公共放送 BBC は、4 月 3 日、コロナウイルス感染症拡大に伴い、英国の児童・生徒が教育課程を継続して学ぶ機会を保障するための取組みとして、14 週間に渡る教育プログラムを提供することを発表した²。児童・生徒の教育の混乱を最小限に抑え、困難な時期に学習習慣を提供することを目的としている。

これにより、ほとんどの学校の学期開始日である 4 月 20 日から、教育課程に沿った様々な教育コンテンツが、無料オンライン学習支援サービス「BBC Bitesize」、オンライン配信プラットフォーム「BBC iPlayer」、双方向サービス「BBC レッドボタン」、テレビチャンネル「BBC Four」、音楽・オーディオアプリ「BBC サウンド」などの BBC の各種プラットフォームやサービスを通じて提供されることとなった。

特徴としては、すべてのコンテンツが、年齢別に分類されており、利用しやすい設定になっている。5～14 歳の児童・生徒が「BBC Bitesize Daily」を利用する際には、BBC iPlayer または BBC レッドボタンを通じて、自分の年齢に合った数学、英語、理科といったコンテンツ、授業に毎日参加できる。それだけでなく、スポーツ、文化、文学に関するコンテンツも提供されており、英国が誇るロイヤル・シェイクスピア・カンパニー、プレミアリーグ、パフィンブックスといった最高品質の教師と組織がコンテンツ及びアクティビティの提供に尽力したという。

さらに、児童・生徒だけでなく、保護者を対象にしたサービスも提供されている。BBC サウンドでは、小学校及び中学校の保護者向けに、教育ポッドキャストの毎日配信を開始し、これにより家庭学習及び健康に関する情報が入手できるようになった。

また、受験生に対する支援も行っており、テレビチャンネル BBC Four を通じて、平日の夕方に、全国統一試験である GSSE 及び A レベル関連のプログラムが提供されている。

かねてより、BBC は公共放送として教育分野に貢献してきたが、トニー・ホール会長によると、今回のような包括的な教育パッケージは、過去最大規模のものとなる。国家の非常事態時に、教師、教育プロバイダー、教育省、ウェールズ政府、スコットランド政府、北アイルランド行政機関と緊密に連携して、教育課程に沿った遠隔学習を提供することによって英国を支援する、としている。

3 コロナウイルス接触追跡アプリの開発・提供

英国では、5 月 5 日、ワイト島 (Isle of Wight) において、新型コロナウイルス接触追跡アプリの試験が開始された³。多くの時間と労力を要する接触追跡のプロセスを自動化し、

² <https://www.bbc.co.uk/mediacentre/latestnews/2020/coronavirus-education>

³ <https://www.gov.uk/government/news/coronavirus-test-track-and-trace-plan-launched-on-isle-of-wight>

新型コロナウイルスの感染者やその接触者を特定し、ユーザに警告することでウイルスの伝染を減らすことを目的としている。第一段階として、国民保健サービス（NHS）及び地方自治体のスタッフを対象に、同日午後 4 時からダウンロードができるようになった。ワイト島の全世帯には、5 月 7 日から使用方法の明確な説明が記載されたリーフレットが送られ、アプリのダウンロードが可能となった。

コロナウイルスの症状の兆候が出た人物がアプリを通じて症状を報告すると、その人物が過去数日間に濃厚接触をした他のアプリユーザが検出される。感染者を探す専門家集団である「コンタクト・トレーサー（接触追跡者）」が、アプリユーザであるかどうかに関係なく、危険にさらされている可能性のあるすべての接触者に、匿名で、アプリ、電子メール、電話を通じて、警告及びアドバイスを通知する。ユーザはアプリを通じてコロナウイルスの検査テストを依頼できるようになる。症状を報告するすべての人は、オンラインサービスを使用して（または、必要に応じて電話インタビューにより）最近接触のあった人を記録するように求められる。

同アプリは、国民保健サービス（NHS）のデジタル化を推進する政府と NHS の共同組織である NHSX が、世界をリードするサイエンティストと医師のチームによって開発したものである。また、国際協力を通じて、オーストラリア、ノルウェー、シンガポールなどで採用されている Bluetooth 低エネルギー技術が導入された。国家サイバーセキュリティセンター（NCSC）の専門家もアプリ開発に関わっており、ユーザのデータのプライバシーとセキュリティは優先事項とされる。データ保護法を含む法律に遵守し、収集されたデータは NHS ケア、管理、評価、調査のみに使用される。

アプリの試験、追跡及び追跡プログラムは 5 月中旬には英国全土で展開されることが予定されており、イングランド公衆衛生サービス（Public Health England : PHE）は同プログラムをサポートするためにコンタクト・トレーサーを更に 1 万 8,000 名雇用すると発表した⁴。英国政府は、同アプリの展開を、感染拡大を最小限に抑え、ロックダウン対策を安全に縮小するための次の段階の施策と位置付けている。

おわりに

2020 年 5 月現在、英国の ICT 産業界は、官民一体となって、この人類未曾有の危機に対して、デジタルコネクティビティによって国民をつなぎ続けようとしている。その一方で、英国社会に「5G が新型コロナウイルスの蔓延に関連している」とのフェイクニュースが流布し、一部の地域で電波塔での火事が相次ぎ、一般の人々からエンジニアが嫌がらせを受ける等の事態が生じている⁵。

⁴ https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/881231/Letter_to_DsPH_on_contact_tracing.pdf

⁵ [ofcom.org.uk/about-ofcom/latest/features-and-news/ofcom-update-on-5g-vandalism](https://www.ofcom.org.uk/about-ofcom/latest/features-and-news/ofcom-update-on-5g-vandalism)

今後も、コロナウイルスによる経済、社会への影響は計り知れず、通信事業者は、音声・データトラフィックやネットワーク負荷の増加への対策だけでなく、安心・安全、子どもの教育、事業運営の支援、社会機能の維持等の分野において、新たな対策が求められていくことになると思われる。

以上